



羽ばたけ

令和元年11月19日 <第11号>

子どもの考える力を伸ばすために

小清水小学校長 可児 隆洋

先日、本棚の奥から「めざせベストサポーター」という小冊子が出てきました。これは、10年以上前、日本サッカー協会からサッカー少年団の保護者向けに配布されていたものです。中を見ると、サッカー選手を伸ばし育てるための手立てが書かれています。しかし、ここには、サッカーに限らず、全ての子ども達を育てる上で大切なヒントが書かれています。保護者の皆さんに限らず、教師としても、子ども達とどのように関わるかの大きなヒントになります。

①察しの悪い大人になる



子どもの考える力を伸ばすためには、保護者は「察しの悪い大人に」なりましょう。子どもが何を考えているのか、子どもが何を求めているのか十分に察知し、理解できるけれど、あえてわからない振りをして、子どもに自分の考えを言葉に出して表現させること、それが「察しの悪い大人」になる目的です。

②「何となく」「ビミョー」を許さない

子どもに何か質問すると、「何となく」「知らない」「わからない」「ビミョー」などと曖昧な返事が返ってくる事が多くなりました。こうした返答はコミュニケーションの放棄です。他人と深いコミュニケーションを結ばなくなるばかりでなく、物事を掘り下げて考える習慣を身につけなくなります。



③具体的に考える機会を与える

子どもの言葉は、印象を語っただけで終わってしまったり、感覚的な言葉だけで伝えようとしたり、擬音語だけですべてを語ろうとしたりすることが多いものです。大人がそれだけで納得してしまうと、子どもはそれ以上深く考えません。さまざまな場面で必要に応じて自分の感覚や印象を具体的な言葉で表現する能力が身につけさせたいものです。

④論理的に考える機会を与える

子どもに論理的に考える習慣を身につけさせましょう。厳密な意味での論理ではありませんが、子どもが何か考えを述べたら、必ず「どうして?」と理由を尋ねるようにしましょう。その環境に慣れてくると、子どもは問われなくても自分から「理由は、なぜかという、どうしてかという」と根拠を述べるようになるでしょう。



⑤5W1Hをフル活用

子どもは自分の思いだけを最優先で伝えようとしてします。そのため、必要な情報が抜け落ちます。こうした状況を放置すると、子どもは情報の抜けを意識して話せるようにはなりません。5W1Hを手がかりに質問しましょう。こうした状況になじんでくると、子どもは自分から5W1Hを用いて話をするようになります。

大切にしたいのは、子どもとの会話です。しかし、大人がリードしてしまうような会話は望ましくありません。子どもが自分で考えて、自分の言葉で表現するような機会を与えましょう。大人が先回りして、話を誘導するのではなく、子どもが自身で考えていることを、自分の言葉や態度で表現するまでじっくり待つ事が大切です。会話の量を増やすためには、アレコレと話しかけるのはかえって逆効果な場合があります。自分の言葉で表現する機会を多くすることで、子どもの考える力を伸ばすことにつながります。

学校現場でも、子どもに理論的に考える時間を与え、子どもが述べたことに対して、「なぜ?」「どうして?」「どうやって?」と先生に対するだけでなく、子ども達同士でもやりとりができるような授業のあり方が求められています。

引用：JFAハンドブック「めざせベストサポーター」日本サッカー協会

学芸会で何を学ばせるか

近年の学芸会は10年前の学芸会と見た目は変わっていませんが、目的や内容は徐々に変わってきています。年々増えていく学習内容、分厚くなっていく教科書、学芸会を準備する時数はずいぶん減っています。学芸会を学習発表会と名前を変えている学校も多くあります。

小清水小学校の学芸会も「日常の学習成果を発表する場」と位置づけ、日常の学習と学芸会をどのように結びつけるかという事が課題となっています。学芸会は単なるイベントではなく「学芸会で何を学ばせるか」、「今後にどのように活かしていくか」にも大きな重点が置かれています。

みんなと同じ台詞、同じ行動で同調させることの大切さを学ぶ学年もあります。自分たちで主体的に練習をして、対話をしながら完成させた学年もあります。同じ目標に向かって、全力をだして挑戦することの大切さを学んだ学年もあります。

学芸会に来校された保護者地域の皆さんには、「これまでの子ども達の努力」と「当日の頑張り」と「明日からの励まし」への拍手をたくさんいただきました。今後も、子ども達のさらなる成長を感じていただけるよう教育活動を進めて参ります。本当にありがとうございました。



帰る時も最高の笑顔

令和元年度

学芸会



2年生「あかいありとくろいあり」



5年生「Paradise Has No Border」



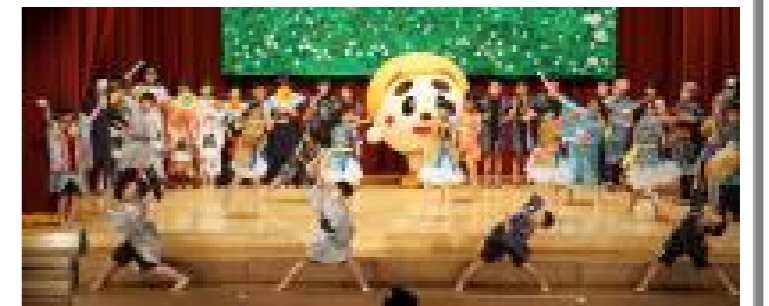
6年生「エルコスの祈り」



1年生「はじめのことば」



3年生「ドレミの歌」



4年生「水戸黄門～渦巻く陰謀・小清水から」

5年生と6年生が中学校の文化祭を観覧しました



5・6年生が中学校の文化祭（合唱コンクールの）に音楽の鑑賞授業の一環として参加しました。中学校の文化祭では毎年、素晴らしい合唱が発表されています。学芸会を控えた5・6年生にはぜひ先輩達の素敵な歌声を聞かせたいということで年間計画に入ることになりました。

給食時間の関係で、「給食あり土曜授業」に設定できなかったため、当日はお弁当の用意をお願いした上での取り組みでした。ご協力ありがとうございました。また、土曜授業としての「授業日」となったので、兄弟間で午前中の舞台発表や合唱コンクールを見たいのに、見られなくなるというケースもでてきたと思います。

小中一貫教育をさらに推進するための試みですので、ご理解をいただくと共に、ご意見等がございましたら11月30日の参観日のアンケートの機会を利用して声を届けていただきたいと思います。

～小清水中学校の先生方や先輩方へ（小学生の感想文より）～



中学生の歌声に聞き入る小学生

★「とても貴重な時間をくださってありがとうございました。」中学生の歌声はとても素晴らしかったです。中学3年生は人数が一番少ないのに声の厚みがすごかったです。学芸会にも活かしていこうと思います。」★

★「中学生の合唱を聴いて、すごいと思いました。」音程やみんなの息が合っていて体育館に響き渡っていました。ほくもみなさんのように歌えるように練習します。」★

★「自由曲の『手紙』がすごく上手でした。女子と男子でパートが分かれていてとてもきれいな歌声でした。」★

★「とても素敵な歌声でした。僕たちも中学生のみなさんのように素敵な歌声を観客のみなさんに聞かせたいです。」★

★「どの学年のみなさんも、きれいで伸びのある歌声で曲中のメッセージが伝わってくるようでした。私たちも、みなさんの合唱のように人を感動させるような合唱にしたいです」★



合唱への思い入れの強さを感じました



作品展も見る事ができました



生徒会のオープニングビデオに釘付け



PTA母親研修会へのご協力 ありがとうございました

講師の選定まで遅れば、一年間に渡って準備をしてきた研修会が終了しました。3連休にもかかわらず、お手伝いや講演会に参加していただいた皆さん、本当にありがとうございました。町民公開講座も兼ねたため、一般参加も含めて150人以上の参加となりました。



託児室の様子



入り口の受付



学校には、講師の竹田先生の絵本や写真集コーナーが作られました。町立図書館から貸し出しを受けた物です。

職業体験の中学生を受け入れました



緊張気味、最初の挨拶

職業体験は、未来を担う子ども達を育てるためにはとても大切な学びです。この学習を通して、子ども達に勤労観・職業観を養わせることを目的としています。小学校にも5人の中学生が体験学習にきました。

まずは、小学校という職場を選んで学ぶ「目的」を確認して、それぞれのクラスに入りました。3日間の体験活動を通して、先生方の仕事の大切さ、難しさ、大変さ、楽しさ等いろいろな感想を持ったようです。



社会の厳しさを教わる



優しく見守るのも大切



親身な指導



黒板の前で先生の様子



子ども達にかこまれ



給食も毎日いっしょ

先生方は、「この仕事のやりがいは何ですか」という質問をされたら、きっと、「こうして教え子達の成長した姿を見ることができると答えることでしょう。」



羽ばたけ

令和元年12月3日 <第12号>

いじめ意識調査アンケートについて

学芸会後に、北海道教育委員会が行っている、いじめに対する意識アンケートに協力いただきました。保護者のいじめに対する学校の取り組みの理解について調べるものでした。せっかくの機会でしたので、本校だけの結果を集計してみると、結果は以下の通りになりました。

2 【学校の取組について】

- (1) 学校のいじめ未然防止の取組 ……分からない72%
- (2) いじめが起きた場合の学校の取組 ……分からない68%

3 【学校から保護者への取組について】

- (1) いじめの定義や解消の要件について保護者に説明する取組 ……分からない65%
- (2) 学校のいじめ防止基本方針について、保護者に説明する取組 ……分からない66%
- (3) いじめ防止対策組織の構成員や役割について、保護者説明する取組 ……分からない75%
- (4) 学校のいじめの認知件数について、保護者に説明する取組 ……分からない69%

この結果から分かることは、以下の3点です。

- ①学校は、どのようにしていじめを未然に防止しようとしているのか、いじめが起きたときにどのように対応するのかを、保護者・地域に対して説明されていないこと。
 - ②いじめ防止基本方針に基づく「いじめの定義」「解消の要件」防止対策組織の構成が周知されていないこと。
 - ③いじめの認知件数が保護者地域に対して報告されていないこと。
- また、上記のどの質問に対しても「取り組まれていないという」回答が10%前後あったという事実も学校として重く受け止めました。

本町は、いじめ防止対策推進法、及び北海道いじめ防止などに関する条例に基づき、小清水町いじめ防止基本方針を策定しております（町のHPに公開）。これを受け、小清水小・中学校いじめ防止基本方針も策定されています。

学校は、この基本方針にのっとり、在籍する児童等の保護者、地域住民、児童相談所、その他の関係員と連携を図りつつ、学校全体でいじめ防止及び早期発見に努めます。また、児童がいじめをうけていると思われる時は、適切かつ迅速にこれに対処する責務があります。

今後、この「はばたけ」の紙面において、いじめ未然防止やいじめが起きた時の対応や学校や町の取組についてご説明させていただきます。ぜひ、ご一読いただき、取組へのご意見・ご批評をいただきますようお願い致します。

⇒⇒⇒裏面「いじめ」とは何かに続きます

| 日 | 曜日 | 12月の行事予定 | 下校バス | |
|----|----|------------------------|-------|--------------------|
| | | | 14:45 | 16:00 16:10 (金) |
| 1 | 日 | | | |
| 2 | 月 | 全校朝会 委員会 | ○ | ○ |
| 3 | 火 | クラブ | ○ | ○ |
| 4 | 水 | | ○ | ○ |
| 5 | 木 | 永井さん読み聞かせ（20分休み） | ○ | ○ |
| 6 | 金 | | ○ | 16:10 |
| 7 | 土 | 小清水児童作品展表彰式 | | |
| 8 | 日 | | | |
| 9 | 月 | | ○ | ○ |
| 10 | 火 | | ○ | ○ |
| 11 | 水 | | ○ | ○ |
| 12 | 木 | やまびこタイム | ○ | ○ |
| 13 | 金 | 6年中学校登校日 | ○ | 16:10 |
| 14 | 土 | | | |
| 15 | 日 | | | |
| 16 | 月 | 委員会 | ○ | ○ |
| 17 | 火 | 幼保小連携事業交流学习 | ○ | ○ |
| 18 | 水 | | ○ | ○ |
| 19 | 木 | 永井さん読み聞かせ（20分休み） | ○ | ○ |
| 20 | 金 | | ○ | 16:10 |
| 21 | 土 | 土曜授業⑩給食なし 3時間授業 2学期終業式 | 11:50 | × |
| 22 | 日 | | | |
| 23 | 月 | 強化学習 | 10:40 | × |
| 24 | 火 | 強化学習 | 10:40 | × |
| 25 | 水 | 強化学習 | 10:40 | × |
| 26 | 木 | | | |
| 27 | 金 | | | |
| 28 | 土 | | | |
| 29 | 日 | | | |
| 30 | 月 | | | |
| 31 | 火 | | | |

小清水小学校ホームページ
月間学校行事予定・年間行事予定も閲覧できるようになっています。

随時更新しているので、ホームページの方もご覧ください。
<http://www.town.koshimizu.hokkaido.jp/elementary/>



めざせ！家庭学習チャンピオン

本校では、子ども達の学力向上を目指し、家庭学習の取り組みに力を入れています。家庭学習の取り組みを確かなものにするには、ご家庭の協力が必要です。

年度当初には、ご家庭での学習習慣の定着を目指した参考資料として「家庭学習の手引き」を作成・配布させていただいています。これは、家庭で家庭学習の約束を話し合う際に活用するためのものです。

さて、11月からは、以下の2点を目的として、お手本となる各学年の家庭学習を掲示する新たな取り組みを始めています。



- ①他の児童の優れた取り組みを全体共有することで、自ら進んで学習する姿勢を身に付けさせること。
- ②優秀な取り組みを表彰することで、学習意欲を高めること

さっそく、各学年の家庭学習（自主学習、自由課題）の中から、優れたノートが選ばれて、掲示されています。多目的ホールに掲示されているので、ぜひご覧ください。



中学校で薬物乱用防止教室

6年生の中学校舎登校日にあわせて、中学校で薬物乱用防止教室が開かれました。

中学校向けの少し難しい内容でしたが、報道等でも身近に感じる事ができる話題だけに、6年生は斜里警察署の方の講話にしっかり耳を傾けていました。



小中一貫教育

広がる「玄関のあいさつ」

子ども達が登校してきた時と下校する時には、玄関から子ども達の元気なあいさつが聞こえてきます。

小清水小学校の職員室はガラス張りです。先生方からは子ども達の登下校の様子が見えるし、子ども達からも先生方が職員室にいる様子がよく見えるのです。

互いに様子が見える中で、玄関のあいさつを始めたのは金管バンドでした。続いて6年生も「玄関のあいさつ」を始めました。

これが、6年生だけではなく、玄関だけではなく、広がって行くことを期待しながら先生方も手を振っています。



PTAミニバレー

恒例のPTA親睦ミニバレー大会が開かれました。PTA総務委員会の皆さんの企画・運営で開かれる大会には、今年も保護者と教員を含めて50名以上の参加がありました。和気あいあいと楽しい時間を過ごし、いっそう親睦を深めることができました。



おはなしポエム

おはなしポエムの皆さんには、休み時間の読み聞かせだけでなく、国語の授業としても協力いただいています。6学年各教室でまわり、長時間の読み聞かせとなるため、給食も試食しながらの実施となります。低学年はもちろん、高学年になっても、子ども達が楽しみにしている時間となっています。



集団下校（お迎え班）について

今年度から、お迎え班の引き渡しを「児童玄関」に変更しました。さらに、お迎えに来ていただいた方の氏名の記入をお願いしています。緊急時における確実な引き渡しのために実施しますので協力をお願いします。

「いじめ」とは何か

「いじめ」とは・・・と問われれば、多くのキーワードが浮かびます。残念ながら、学校現場だけでは収まりきらない意味を持つ言葉です。

学校におけるいじめは、いじめられた児童の教育を受ける権利を侵害するもの、心身の健全な成長及び人格の形成に影響を及ぼすもの、時には生命や身体に重大な危険を生じさせるものだという事は紛れもない事実です。

私たち教員は「いじめ予防」に努めるとともに、問題行動発生時に迅速で的確な対処をするために、いじめを正確に認知（何がいじめなのか、どこからいじめなのか）することが求められます。学校では、以下のいじめの定義を判断基準とするとともに、個人判断はせず、学校組織として判断するようにしています。



「いじめ」とは、ある児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と

- ① 一定の人的関係にある他の児童等が行う
 - ② 心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、
 - ③ 当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。
- なお、起こった場所は問わない。

（いじめ防止対策推進法第2条：平成28年改正）

⇒⇒⇒次回は、学校組織としてどのように対応しているかについて説明します。

新しい支援員さんご紹介

11月22日から算数チャレンジ教室の学習支援員として、桑泊祥子先生にお手伝いいただくことになりました。算数は特に基礎基本の積み重ねが大切です。子ども達一人一人の学習状況に応じた決め細やかな指導をお願いする事になります。よろしくお願いします。

